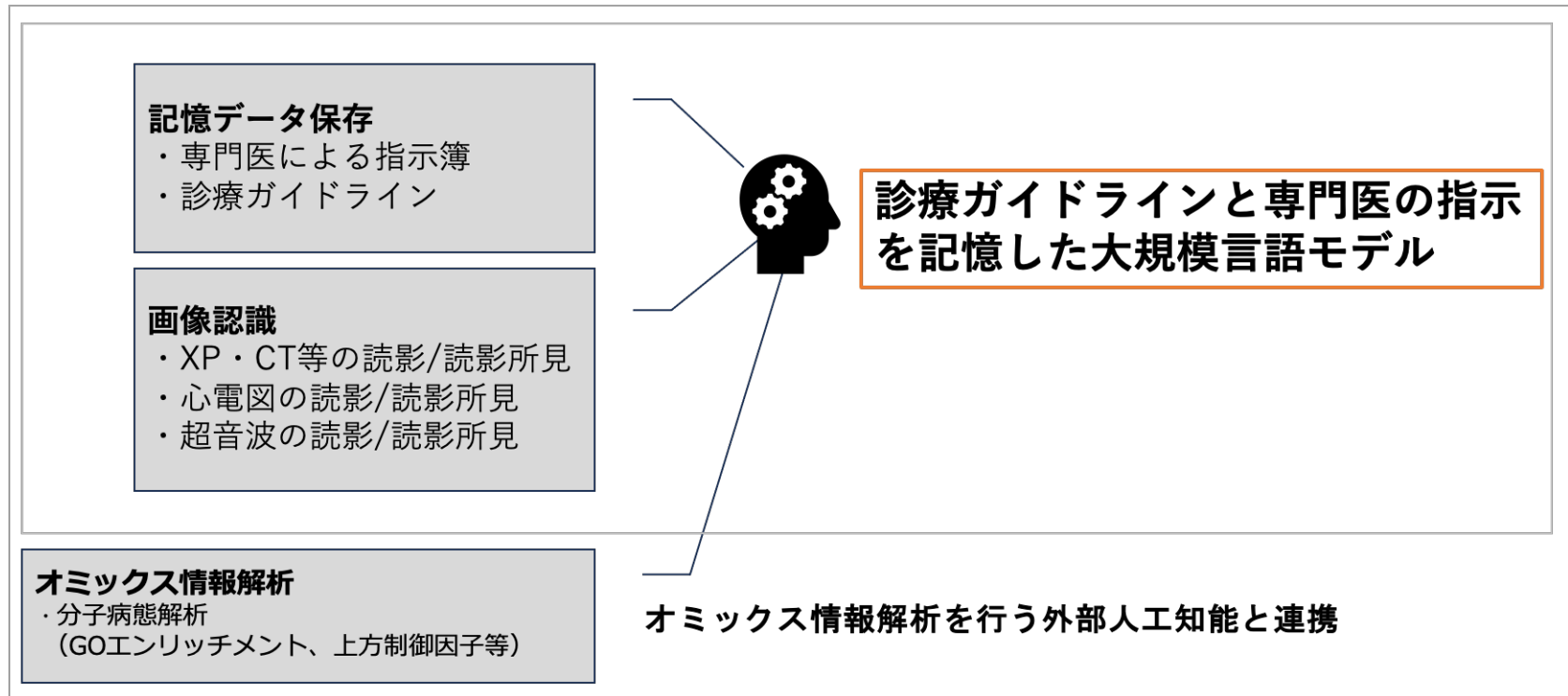


# 大規模言語モデルに基づく急性期補助診療モデルを開発

松本寿健、蛭原健、舘野丈太郎（大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター）

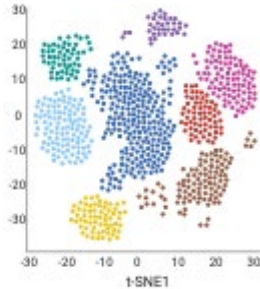
- 『救急集中治療の専門医が作成した指示簿』を大規模言語モデルに記憶することで、専門医の意思決定を集中治療室（ICU）や遠隔ICUでリアルタイムで再現できる。
- 専門医の負担が大きく軽減され、持続的かつ効率的に同時に多数の患者の診療を行うことができる。
- 臨床情報に加えて遺伝情報を導入していく。今後、一人一人に対して適切な個別化医療への応用が期待される。



# 製品化イメージ (急性期補助診療システム)

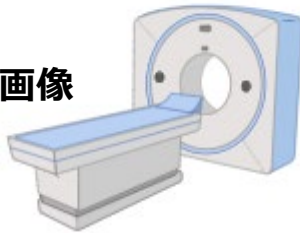


患者カルテ



遺伝情報 (導入予定)

画像



治療機器 (人工呼吸器等)



持続点滴

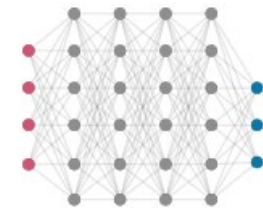
ICUモニター

## リアルタイム臨床情報

診療ガイドラインと専門医の指示  
を記憶した大規模言語モデル



## リアルタイム解析



## リアルタイム補助診療



- ・承認ボタンをクリック
- ・適切な指示に修正